

日本タイ学会 2020年研究大会プログラム (2020.09.15改訂)

【日程】2020年10月10日(土)  
 【場所】オンライン (Zoom利用)  
 【参加費】無料

10月10日(土)

	会場1	会場2	会場3
9:10-9:20	開会の辞(会長)		
9:20-9:55	個人1-1 佐々木 創 コロナ禍で露呈したタイの廃プラ対策の限界	個人2-1 シリクルラタナ・ポーンパット ハイブリッドな標準化と柔軟性の二面性:1910年代から1930年代のシャム・タイにおける全国的な学校建設について	
10:00-10:35	個人1-2 今村 都 タイ出稼ぎ労働者の近代化への適応:ラヨン県の日系製造業の事例から	個人2-2 馬場 智子 スネート カンピ ラパーブ 野津 隆志 ノンフォーマル教育機関の教職員と政府との関係	書評1 著者:赤木 攻 評者:日向 伸介 『タイのかたち』
10:40-11:15	個人1-3 タナパット・チャン ディッタウォン 鈴木 規之 「共通空間」による国民国家周辺のコンフリクト解決の試み:深南部三県と沖縄の事例から	個人2-3 朴 苑善 タイ北部チェンマイ県におけるタイヤイ移民の戦略的教育の選択:タイ生まれや幼少期に来タイしたタイヤイ若年層の主体的選択に着目して	書評2 著者:外山 文子 評者:高橋 正樹 『タイ民主化と憲法』
11:20-11:55	個人1-4 江藤 双恵 新型コロナ禍下における村落保健ボランティアの表象とその役割	個人2-4 Sawang Meesaeng Cultural Identity Modification of Akha Ethnic Group under Environmentalty for Natural Resources Conservation by Arabica Coffee Growing Business: A case study in Chiang Rai, Northern Thailand	書評3 著者:直井 里予 評者:櫻井 義秀 『病縁の映像地域研究』
12:00-12:35	個人1-5 玉田 芳史 学生運動復活:背景と意味	個人2-5 加藤 久美子 18世紀半ばにおける、北部タイおよびビルマ・シャン州東部地域に対する中国清朝の認識	
12:35-13:30	昼休み		
13:30-13:50	会員総会		
14:00-16:00	共通論題「タイにおけるコロナ禍の現状と今後の展望」		
	司会 馬場 雄司・遠藤 環		
	報告1 大泉 啓一郎 高橋 徹 ポストコロナのタイを考える3つの視点		
	報告2 (日本経済新聞社 アジア編集総局長) 「コロナ対策の優等生」に映るタイのいま		
	報告3 河森 正人 コロナ下の医療と社会:何が変わったのか		
	報告4 岡野 英之 社会的経験としてのコロナ禍:何がどのように問題とされたのか		
16:00-16:10	閉会の辞(会長)		